

応用的なコール処理

応用的なコール処理のタスクには、特別な機能が伴うため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に電話機の設定を依頼します。

短縮ダイヤル

短縮ダイヤルを使用すると、インデックス番号を入力する、ボタンを押す、または電話機のスクリーンの項目を選択することによって、コールを発信できます。電話機は、設定に応じて、次の短縮ダイヤル機能をサポートできます。

- 短縮ダイヤル ボタン
- 固定短縮ダイヤル機能
- ファースト ダイヤル



(注)

- 短縮ダイヤル ボタンおよび固定短縮ダイヤルを設定するには、ユーザ オプション Web ページにアクセスする必要があります。P.77 の「[ユーザ オプション Web ページへのアクセス](#)」を参照してください。
 - ファースト ダイヤルを設定するには、パーソナルディレクトリ機能にアクセスする必要があります。P.71 の「[電話機でのパーソナルディレクトリの使用](#)」を参照してください。
 - あるいは、システム管理者が代わりに短縮ダイヤル機能を設定することもできます。
-

目的	操作または状態の説明
短縮ダイヤル ボタンを使用する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 短縮ダイヤル ボタンを設定します。P.80の「Webでの短縮ダイヤルの設定」を参照してください。 2. コールを発信するには、 (短縮ダイヤル ボタン) を押します。 <p> (注) 電話機が Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) 短縮ダイヤル機能をサポートする場合は、短縮ダイヤル番号が話し中であるかどうかを、ダイヤルする前に確認できます。P.53の「BLFの使用による回線の状態の確認」を参照してください。</p>
固定短縮ダイヤル機能を使用する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 固定短縮ダイヤル コードを設定します。P.80の「Webでの短縮ダイヤルの設定」を参照してください。 2. コールを発信するには、固定短縮ダイヤル機能コードを入力して、[短縮] を押します。
ファーストダイヤルを使用する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人アドレス帳エントリを作成し、ファースト ダイヤル コードを割り当てます。P.78の「Webでのパーソナルディレクトリの使用」を参照してください。 2. コールを発信するには、電話機からファースト ダイヤル サービスにアクセスします。P.71の「電話機でのパーソナルディレクトリの使用」を参照してください。

自分の電話機にリダイレクトされたコールへの応答

コール ピックアップを使用すると、同僚の電話機で呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトすることで応答できます。コール処理を同僚と共有する場合は、コール ピックアップを使用すると便利です。

目的	操作または状態の説明
コール ピックアップ グループ内の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">次のいずれかの操作を実行します。<ul style="list-style-type: none">[ピック] ボタンまたはソフトキーが使用できる場合は、それを押します。[ピック] ボタンまたはソフトキーが使用できない場合は、オフフックにして [ピック] ソフトキーを表示してから、それを押します。電話機が自動ピックアップをサポートしている場合は、これでコールに接続されます。コールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。
グループ外の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">次のいずれかの操作を実行します。<ul style="list-style-type: none">[G ピック] ソフトキーまたは [グループピックアップ] ボタンが使用可能な場合は、キーまたはボタンを押します。[G ピック] ソフトキーまたは [グループピックアップ] ボタンが使用できない場合、オフフックにして [G ピック] ソフトキーを表示してからキーを押します。グループ ピック コードを入力します。 電話機が自動ピックアップをサポートしている場合は、これでコールに接続されます。 <ol style="list-style-type: none">コールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。
自分のグループまたは関連付けられたグループ内の別の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">次のいずれかの操作を実行します。<ul style="list-style-type: none">[他 Grp] ソフトキーまたは [他のピックアップ] ボタンが使用可能な場合は、キーまたはボタンを押します。[他 Grp] ソフトキーまたは [他のピックアップ] ボタンが使用できない場合、オフフックにして [他 Grp] ソフトキーを表示してからキーを押します。電話機が自動ピックアップをサポートしている場合は、これでコールに接続されます。コールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。

ヒント

- ユーザの電話機の設定の種類によっては、ピックアップ グループへのコールに関する音声または画像（またはその両方）による警告を受信する場合があります。
- **[ピック]**、**[G ピック]**、または **[グループピックアップ]** を押すと、一番長く鳴り続けているコールに接続します。
- **[他 Grp]** ソフトキーまたは **[他のピックアップ]** ボタンを押すと、プライオリティが一番高いピックアップ グループのコールに接続します。
- 回線が複数あり、プライマリ回線以外でコールに応答する場合は、まず、該当する回線の  を押してから、コール ピックアップのボタンまたはソフトキーを押します。

パークされているコールの保存と取得

コールをパークすると、コールを保存し、Cisco Unified Communications Manager システムの別の電話機（同僚のデスクや会議室の電話機など）でコールを取得できます。次の方法を使用してコールをパークできます。

- コールパーク：[パーク] ソフトキーを使用してコールを保存します。システムがユーザのコールを保存するコールパーク番号がユーザの電話に表示されます。ユーザはこの番号を記録し、コールを取得する場合もこの番号を使用する必要があります。
- ダイレクトコールパーク：[転送] ソフトキーを使用して、ダイヤルまたは短縮ダイヤルで使用可能なダイレクトコールパーク番号にコールを割り振ります。ダイレクトコールパークの番号からコールを取得するには、パーク取得プレフィクスをダイヤルしてから、同じダイレクトコールパークの番号にダイヤルするか短縮ダイヤルする必要があります。
[ダイレクトコールパーク] ボタンを使用して、ダイレクトコールパーク番号に短縮ダイヤルでき、ダイレクトコールパーク番号が使用中か使用可能かを監視できます。

目的	操作または状態の説明
コールパークを使用してアクティブなコールを保存する	<ol style="list-style-type: none"> 1. コール中に、[パーク] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、[パーク] を押します）。 2. 電話機のスクリーンに表示されたコールパーク番号を書き留めます。 3. 切断します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク内の任意の Cisco Unified IP Phone でコールパーク番号を入力し、コールに接続します。
アクティブなコールをダイレクトコールパーク番号に割り振って保存する	<ol style="list-style-type: none"> 1. コール中に、[転送] を押します 2. パーク未使用アイコン  が表示された [ダイレクトコールパーク] ボタン  を押し、ダイレクトコールパーク番号に短縮ダイヤルします。 パーク使用中アイコン  が表示された [ダイレクトコールパーク] ボタン  (点滅) は、そのダイレクトコールパーク番号が使用できないことを示しています。 3. もう一度 [転送] を押して、そのコールの保存を終了します。
ダイレクトコールパーク番号からのパークされたコールを取得する	任意の Cisco Unified IP Phone からパーク取得プレフィクスを入力してダイレクトコールパーク番号にダイヤルします。または、パーク取得プレフィクスを入力後に、  の表示された  (点滅) を押してコールに接続します。

ヒント

- パークされているコールを取得するまでの時間は制限されていて、その時間を過ぎると元の番号に戻って呼出音が鳴ります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。
- システム管理者は、Cisco Unified IP Phone 7914 拡張モジュールを備えたユーザの Cisco Unified IP Phone 7975G で使用可能な回線ボタンに [ダイレクト コール パーク] ボタンを割り当てることができます。
- [ダイレクトコールパーク] ボタンが電話機にない場合でも、ダイレクト コール パーク番号にダイヤルできます。ただし、ダイレクト コール パーク番号のステータスは表示されません。

ハント グループのログアウト

大量の着信コールがある組織の場合は、ハントグループが設定されている場合があります。ハントグループには、着信コールの負荷を共有する一連の電話番号が設定されています。ハントグループ内の最初の電話番号が通話中の場合は、次に使用可能な番号がグループ内で検索され、その電話機にコールが割り振られます。

電話機から離れる場合、ハントグループからログアウトすることによって、ハントグループのコールがかからないようにすることができます。

目的	操作または状態の説明
ハントグループをログアウトして一時的にハントグループのコールをブロックする	[ハント] ソフトキーまたは [ハントグループ] ボタンを押します。電話機のスクリーンに「ハントグループからログアウト」と表示されます。
ログインしてハントグループのコールを受信する	[ハント] ソフトキーまたは [ハントグループ] ボタンを押します。ログインすると、[ハントグループ] ボタン  が点灯します。

ヒント

ハントグループからログアウトしても、ハントグループ以外のコールは引き続き着信します。

共有回線の使用

次の場合は、共有回線を使用するようシステム管理者から求められることがあります。

- 電話機が複数あり、電話番号を1つだけ使用する場合
- コール処理タスクを同僚と共有する場合
- マネージャの代わりにコールを処理する場合

共有回線について

リモートで使用中のアイコン

リモートで使用中のアイコンは、回線を共有する別の電話機にコールが接続されている場合に表示されます。リモートで使用中のアイコンが表示されていても、通常どおり共有回線でコールを発信および受信できます。

コール情報の共有と割り込み

回線を共有する電話機は、共有回線で発信および受信されたコールに関する情報を表示します。この情報には、発信者 ID および通話時間が含まれます（例外については、「[プライバシー](#)」の項を参照してください）。

コール情報がこのように表示されることで、回線を共有する同僚や自分が、**[割り込み]** または **[C 割り込]** を使用して、自分自身をコールに追加できます。[P.50](#) の「[割り込みの使用による共有回線のコールへの参加](#)」を参照してください。

プライバシー

自分のコールに関する情報を、回線を共有している同僚に見られないようにするには、プライバシー機能を有効にします。この機能により、同僚が自分のコールに割り込むのを防ぐこともできます。[P.52](#) の「[他人による共有回線のコールの表示および割り込みの防止](#)」を参照してください。



(注) 共有回線がサポートするコールの最大数は、電話機によって異なります。

割り込みの使用による共有回線のコールへの参加

割り込み機能（[C 割込] または [割込み]）を使用して、共有回線のコールに自分自身を追加できます（プライベート コール以外のコールである必要があります。P.49 の「共有回線の使用」を参照してください）。

割り込み機能について

C 割り込みと割り込み

電話機の設定によって、[C 割込] または [割込み] を使用して、共有回線のコールに自分自身を追加できる場合があります。

- [C 割込] を使用すると、コールを標準の会議に切り替え、新しい参加者を追加できます（標準の会議の詳細については、P.37 の「会議コールの使用方法」を参照してください）。
- [割込み] を使用すると、コールに自分自身を追加することはできますが、コールを会議に切り替えることや、新しい参加者を追加することはできません。

ワンボタン割り込みとマルチタッチ割り込み

電話機の割り込み機能がワンボタン機能として動作するか、マルチタッチ機能として動作するかは、システム管理者が決定します。

- ワンボタン割り込みでは、回線ボタンを押してコールに割り込むことができます。
- マルチタッチ割り込みでは、コール情報を表示した後で割り込むことができます。

割り込み機能の使用法

次の表に、割り込み機能（[C 割込] または [割込み]）を使用して共有回線のコールに自分自身を追加する方法を示します。

目的	操作または状態の説明
共有回線が使用中かどうかを確認する	赤い回線ボタン  の横に、リモートで使用中のアイコン  があるかどうか探します。
共有回線のコールに参加する	共有回線の赤の回線ボタン  を押します。 次のどちらかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • コールに追加される。 • 割り込み先のコールを選択するよう求めるウィンドウが電話機のスクリーンに表示される。操作を完了するには、[割り込み] または [C 割込] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、[割り込み] または [C 割込] を表示します）。
会議の参加者を表示する（[C 割込] を使用した場合）	P.40 の「 会議の参加者の表示または削除 」を参照してください。

ヒント

- コールに割り込むと、他の参加者に対して自分の存在を知らせるビープ音が鳴ります。[C 割込] を使用した場合は、他の参加者に短い割り込み音が聞こえ、電話機のスクリーンが切り替わって会議の詳細が表示されます。
- 共有回線を使用している電話機でプライバシー機能を有効にしている場合、コール情報と割り込みのソフトキーは、回線を共有しているその他の電話機に表示されません。
- コールが保留状態になるか、転送されるか、または会議コールに切り替えられた場合、[割り込み] を使用して参加していたコールから切断されます。

他人による共有回線のコールの表示および割り込みの防止

電話回線を共有している場合は、プライバシー機能を使用して、回線を共有する他人が共有回線のコールを表示したりコールに割り込み（コールに彼ら自身を追加）したりできないように防止できます。

目的	操作または状態の説明
他人が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを防止する	<ol style="list-style-type: none">1. [非通知] の  を押します。2. プライバシー機能がオンになっていることを確認するには、オレンジの回線ボタン  の横にある機能有効アイコン  を確認します。
他人が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを許可する	<ol style="list-style-type: none">1. [非通知] の  を押します。2. プライバシー機能がオフになっていることを確認するには、消灯している回線ボタン  の横にある機能無効アイコン  を確認します。

ヒント

- 自分の回線を共有している電話機がプライバシー機能を有効にしている場合、通常どおり共有回線を使用してコールを発信および受信できます。
- プライバシー機能は、自分の電話機のすべての共有回線に適用されます。その結果、複数の共有回線がある状態でプライバシー機能を有効にすると、同僚はユーザのすべての共有回線のコールを表示できず、コールに割り込めません。

BLF の使用による回線の状態の確認

設定に応じて、Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) 機能を使用して、電話機の短縮ダイヤルボタン、履歴、またはディレクトリ リストに関連付けられた電話回線の状態を確認することができます。この回線にコールを発信することは、BLF ステータスにかかわらず可能です。この機能は、ダイヤルを妨げるものではありません。

目的	操作または状態の説明
短縮ダイヤル回線の状態を確認する	<p data-bbox="525 440 1270 500">回線番号のとなりのインジケータを確認します。次のいずれかが表示されます。</p> <ul data-bbox="572 529 1224 695" style="list-style-type: none"><li data-bbox="572 529 897 558"> + ● 回線は使用中です。<li data-bbox="572 570 999 599"> + ● 回線はアイドルの状態です。<li data-bbox="572 610 1224 639"> この回線では、BLF インジケータは使用できません。<li data-bbox="572 651 1033 695"> + ● 回線はサイレントの状態です。
履歴またはディレクトリに表示されている回線の状態を確認する	<p data-bbox="525 719 1270 779">回線番号のとなりのインジケータを確認します。次のいずれかが表示されます。</p> <ul data-bbox="572 808 1224 971" style="list-style-type: none"><li data-bbox="572 808 841 837"> 回線は使用中です。<li data-bbox="572 849 942 878"> 回線はアイドルの状態です。<li data-bbox="572 889 1224 919"> この回線では、BLF インジケータは使用できません。<li data-bbox="572 930 975 971"> 回線はサイレントの状態です。

安全なコールの送受信

システム管理者が電話機システムをどのように設定したかによって異なりますが、電話機では安全なコールの送受信がサポートされます。

電話機では、次のタイプのコールがサポートされます。

- **認証されたコール**：コールに参加しているすべての電話機の ID が検証されています。
- **暗号化されたコール**：電話機が Cisco IP ネットワーク内で暗号化された音声（会話）を送受信しています。暗号化済みのコールは認証済みのコールでもあります。
- **ノンセキュアコール**：参加している電話機または接続の少なくとも 1 つでセキュリティ機能がサポートされていないか、電話機を検証できません。

目的	操作または状態の説明
コールまたは会議のセキュリティレベルを確認する	コールアクティビティ領域の右上、通話時間タイマーの横にあるセキュリティアイコンが、次のいずれかの状態になっていることを確認します。  認証されたコールまたは会議  暗号化されたコールまたは会議  ノンセキュアなコールまたは会議
社内で安全なコールを発信できるかどうかを判断する	システム管理者にお問い合わせください。

 **(注)** 電話機でのセキュリティ機能の動作に影響を与える相互作用、制限、および限定事項があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

不審なコールのトレース

(SCCP 電話機のみ)

不審（迷惑）なコールを受信している場合、システム管理者は電話機に **Malicious Call Identification (MCID; 迷惑呼 ID)** 機能を追加できます。この機能を使用すると、アクティブなコールを不審なコールとして識別できます。その結果、一連のトラッキングと通知のメッセージが自動的に発信されます。

目的	操作または状態の説明
システム管理者に不審なコールまたは嫌がらせのコールの受信を通知する	[迷惑呼] ソフトキーまたは [迷惑呼 ID] ボタンを押します。 電話機はトーンを再生し、「迷惑呼が成功しました」というメッセージを表示します。

重要なコールの優先順位付け

(SCCP 電話機のみ)

官庁のような特別な環境では、緊急または重要なコールを発信および受信しなければならない場合があります。この特別なコール処理が必要な場合は、電話機への **Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)** の追加をシステム管理者に依頼します。

次の用語に留意してください。

- **Precedence** : コールに関連付けられたプライオリティを示します。
- **Preemption** : プライオリティの低い既存のコールを終了して、電話機に送信されたプライオリティのより高いコールを受け入れる処理です。

目的または状態	操作または状態の説明
発信コールのプライオリティ レベル (Precedence) を選択する	対応するコールの Precedence 番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください。
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。
特別な (通常より速い) 呼出音または特別なコール待機のトーンが聞こえる	プライオリティ (Precedence) コールを受信しています。電話機のスクリーンの MLPP アイコンが、コールのプライオリティ レベルを示します。
コールのプライオリティ レベルを表示する	電話機のスクリーンの MLPP アイコンが、次のいずれかの状態になっていることを確認します。  <ul style="list-style-type: none">■ プライオリティ コール■ 中程度のプライオリティの (即時) コール■ プライオリティの高い (フラッシュ) コール■ プライオリティの最も高い (フラッシュ オーバーライド) コールまたはエグゼクティブ オーバーライド コール プライオリティの高い順に、コールのリストの先頭から表示されます。 MLPP アイコンが表示されない場合、プライオリティ レベルは普通 (日常) です。
コールを中断する音が連続的に聞こえる	自分または他の参加者が、現在のコールに優先すべきコールを受信しています。すぐに切断して、プライオリティのより高いコールの呼出音が鳴るようにします。

ヒント

- MLPP が有効なコールを発信または受信すると、標準のトーンとは異なる特別な呼出音とコール待機のトーンが鳴ります。
- 無効な MLPP アクセス番号を入力すると、音声通知でエラーを警告されます。
- 次の場合には、MLPP が有効なコールのプライオリティと優先ステータスがそのまま維持されます。
 - コールを保留にする
 - コールを転送する
 - コールを 3 者会議に追加する
 - [ピック] を使用してコールに応答する
- MLPP を使用すると、サイレント機能が無効になります。

Cisco エクステンション モビリティの使用

Cisco Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) を使用すると、Cisco Unified IP Phone を一時的に自分の電話機として設定できます。EM にログインすると、電話機は、電話回線、機能、設定されたサービス、Web ベースの設定などのユーザ プロファイルを採用します。EM は、システム管理者に設定してもらう必要があります。

目的	操作または状態の説明
EM にログインする	<ol style="list-style-type: none">1.  > [EM Service] を選択します (名前は異なる場合があります)。2. (システム管理者から提供された) ユーザ ID と PIN を入力します。3. プロンプトが表示されたら、デバイス プロファイルを選択します。
EM からログアウトする	<ol style="list-style-type: none">1.  > [EM Service] を選択します (名前は異なる場合があります)。2. ログアウトするよう求めるプロンプトが表示されたら、[Yes] を押しします。

ヒント

- EM を使用すると、一定の時間が経過した後で自動的にログアウトします。この時間制限はシステム管理者によって設定されます。
- ユーザ オプション Web ページを使用して EM プロファイルに加えた変更は、電話機で EM にログインしている場合はすぐに有効になります。ログインしていない場合は、次回ログインしたときに有効になります。
- ユーザ オプション Web ページを使用して電話機に加えた変更は、EM からログアウトしている場合はすぐに有効になります。ログアウトしていない場合は、ログアウトした後に有効になります。
- 電話機によって制限を受けるローカル設定は、EM プロファイルには保存されません。

1つの電話番号を使用したビジネス コールの管理

モバイル コネクトと モバイル ボイス アクセスをインストールしておく、デスクトップの電話番号に関連付けられているコールを携帯電話で処理できます。スマートフォンは、Web ブラウジング、電子メール、アドレス帳、カレンダーといったパーソナル コンピュータの機能を備えたモバイル電話機の一つです。

目的	操作または状態の説明
モバイル コネクトを設定する	ユーザオプション Web ページを使用して、リモート接続先を設定し、特定の電話番号からのコールがリモート接続先に渡されるのを許可またはブロックするためのアクセス リストを作成します。 P.87 の「モバイル コネクト用の電話機とアクセス リストの設定」 を参照してください。
携帯電話でコールに応答する	P.26 の「コールへの応答」 を参照してください。
進行中のコールをデスクトップの電話機および携帯電話で切り替える	P.31 の「進行中のコールの他の電話機への切り替え」 を参照してください。
スマートフォンで応答しているコールを保留にする	<ol style="list-style-type: none">1. スマートフォンの [保留] (正確なソフトキー名は異なる場合があります) ソフトキーを押します。 通話相手は保留状態になります。2. スマートフォンの [復帰] (正確なソフトキー名は異なる場合があります) ソフトキーを押します。P.31 の「進行中のコールの他の電話機への切り替え」を参照してください。
スマートフォンで応答しているコールを別の番号に転送する	<ol style="list-style-type: none">1. スマートフォンの [転送] (正確なソフトキー名は異なる場合があります) ソフトキーを押します。2. コールを転送するエンタープライズ アクセス コードをダイヤルして新規コールを開始します。通話相手は保留状態になります。3. [転送] を押してコールの転送を完了します。
スマートフォンで応答しているコールで会議コールを開始する	<ol style="list-style-type: none">1. スマートフォンの [会議] (正確なソフトキー名は異なる場合があります) ソフトキーを押します。2. 会議用のエンタープライズ アクセス コードをダイヤルして新規コールを開始します。通話相手は保留状態になります。3. [会議] ソフトキーを押して会議の設定と、両方の発信者を会議に含める手順を完了します。

目的	操作または状態の説明
モバイル ボイス アクセスに接続する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意の電話機から、割り当て済みのモバイル ボイス アクセスの番号にダイヤルします。 2. 発信番号（要求された場合）と PIN を入力します。
携帯電話からモバイル コネクトを有効にする	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザに割り当てられているモバイル ボイス アクセスの番号にダイヤルします。 2. 携帯電話の番号（要求された場合）と PIN を入力します。 3. 2 を押してモバイル コネクトを有効にします。 4. 次のように、設定したすべての電話機に対してモバイル コネクトを有効化するか 1 台のみで有効化するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> － 全電話機で有効にする：2 を押します。 － 1 台の電話機で有効にする：1 を押してからリモート接続先として追加する番号を入力し、直後に # を押します。
携帯電話からコールを発信する	<p>P.24 の「コールの発信：追加オプション」を参照してください。</p>
携帯電話からモバイル コネクトを無効にする	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザに割り当てられているモバイル ボイス アクセスの番号にダイヤルします。 2. 携帯電話の番号（要求された場合）と PIN を入力します。 3. 3 を押してモバイル コネクトを無効にします。 4. 次のように、設定したすべての電話機に対してモバイル コネクトを無効化するか 1 台のみで無効化するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> － 全電話機で無効にする：2 を押します。 － 1 台の電話機で無効にする：1 を押してからリモート接続先として削除する番号を入力し、直後に # を押します。

ヒント

- モバイル ボイス アクセスにコールするときは、次の条件が当てはまる場合、PIN に加えて発信番号も入力する必要があります。
 - － 発信している番号がリモート接続先の番号以外である。
 - － 通信事業者によって番号がブロックされている（「不明な番号」と表示）。
 - － 番号が Cisco Unified Communications Manager のデータベースと完全には一致しない場合。たとえば、ユーザの番号が 510-666-9999 でデータベースに一覧されている番号が 666-9999 の場合や、ユーザの番号が 408-999-6666 でデータベースには 1-408-999-6666 と入力されている場合などがこれに当てはまります。
- 要求された情報（携帯電話の番号または PIN）の入力を 3 回連続して誤ると、モバイル ボイス アクセス コールから切断され、ユーザは一定の時間ロックアウトされてアクセスできなくなります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。